

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	平野区
学校名	瓜破小学校
学校長名	俵 正典

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・瓜破小学校では、第6学年 63 名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数とともに全国平均を下回った。国語科は10ポイント、算数科は16ポイント下回る結果となった。領域別では、国語科では「言葉の特徴」「情報の扱い方」については6~7ポイント低く、それ以外の項目では2桁低くなってしまっており特に「B書くこと」では18ポイントと大きく下回った。算数科ではすべての領域で2桁以上下回っており、特に「A 数と計算」では21ポイント下回る結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 全国平均と比べ大きく差があった部分は「B書くこと」の領域であるが問題形式は記述式であった。以前から本校の児童は記述問題に苦手を感じているようである。ただ、「知識・技能」の観点においては少しずつ改善も見られた。このことは児童質問紙「43国語の勉強は好きだ」の項目については全国比プラス9ポイントになっており、児童の意識も改善していることがわかる。

〔算数〕 全国平均から20ポイント以上下回った問題は6問あった。その内4問が「A数と計算」領域であった。学びコラボレーターや学びサポーターと協力しながら基礎基本の定着を目指し、放課後学習などでも繰り返しを行っているが、まだ達成できていないのが現実であり、今後も継続して基礎基本の定着に努めていく。

質問紙調査より

同一学年の成長の過程を追うことができる大阪市小学校学力経年調査（以下経年調査）の質問紙調査と肯定的回答を比較すると、「学校に行くのは楽しい」72.5→79.4ポイント（以下p）、「いじめはどんな理由があってもいい」89.6→93.1p、「自分にはよいところがある」58.6→74.1p等、学校生活での児童の意識が高まっている。さらに「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「国語（算数）の勉強が好き」「国語の内容はよく分かる」に肯定的回答をする児童の割合も、今回の全国学力・学習状況調査の方が上回っており、学習への意識も高まっている。

今後の取組(アクションプラン)

全国学力・学習状況調査では上記の結果となつたが、経年調査からは、児童の学習に取りくむ姿勢は評価できる。3年生時から5年生時の対大阪市の標準化得点は、国語科で92.5、95.3、93.1、算数科で93.7、93.2、92.7と学年が上がり、学習内容が難しくなっているのに関わらず大きな変動はない。さらに質問紙調査よりで記したように、「国語（算数）の勉強が好き」「国語の内容はよく分かる」に肯定的回答をする児童の割合は、ほとんどの項目で5年生2学期の経年調査時より、今回の全国学力・学習状況調査の方が上回っている。さらなる児童の学力向上を図るためにも、授業研究や検証授業等で教員の指導力向上を図るとともに、学力アップコラボレーター、学びサポーターを活用するなどして、児童の基礎基本の定着を目指していく。